中期計画の作成に向けての意見

関市は、７８０余年の歴史をもつ刃物産業を中心に、世界的な「刃物のまち」として発展していますが、将来に向けて一層高度かつ多様な市民の就業ニーズに対応でき、地域の経済発展の原動力となりうる産業を育成することが重要な課題となっています。また、近年の産業を取り巻く環境は、技術革新や情報化の進展、国際競争の激化、消費価値観の多様化などによって大きく変化しており、時代に即応した新しい産業構造の構築が求められています。

１，東海環状自動車道西ルート

本市は、東海北陸自動車道と平成１７年３月に開通した、東海環状自動車道の結節点という恵まれた立地条件にあることから、新産業拠点として「関テクノハイランド」を整備し、さらに、東海環状自動車道の沿線において、物流と製造の複合拠点としての工業団地を計画しており、現在、早期事業化を目指し調査研究を進めているところです。

これらの施策を軌道に乗せるためには、さらに広域的アクセスの強化を図る必要があります。東海環状自動車道は本市のまちづくりにおいて、その根幹を成すものであり、さらに西ルートが開通し供用開始してこそ、環状ルートとしてより一層の効果が期待できるものであります。

今後においては、東海環状自動車道西ルートの早期の整備にあたり、今ある高速道路ネットワークを最大限に活用できる、追加インターチェンジを重点的に整備するとともに、アクセス道路と一体化した整備促進が有効な施策と考えます。

２，一般国道１５６号岐阜東バイパス第３工区

一般国道１５６号は、岐阜市茜部を起点として関市を経由し、長良川に沿って北上し白川郷を超え富山県高岡市に至る重要な幹線道路であります。

このうち、特に岐阜市から関市にかけては、大規模な住宅団地、各種大型店舗の進出など沿線の開発が進み、交通混雑・交通渋滞により、国道としての機能はもとより地域住民の日常生活に支障をきたしている状況であります。

とりわけ、関市西部地域においては、国道２４８号、国道２４８号バイパス、県道関本巣線などの幹線道路が合流する地域であり、大型車両を含む交通量の増加による交通渋滞は特に深刻な状況であり、一日も早い岐阜東バイパス第３工区の開通が望まれます。

今後はこうした整備要望箇所について、渋滞度合、危険性などによる整備の必要性を数値化するなどして優先順位を付け、集中的に投資し、事業のスピードアップを図られるような方法が有効と考えます。

３，国道４１８号、国道２４８号バイパス及び市域全体の幹線道路網整備

平成１７年の合併による市域の拡大に伴い、山間地域を含めた幹線道路の整備は、最も重要な課題となっています。

特に、山間地域の幹線道路の整備は、日常の生活道路としてはもちろん、災害時の緊急輸送、市街地域や観光地とのアクセス向上など交流基盤として欠かせないものであり、豊かな自然と観光資源に恵まれた当地域の自立活性化を図る上でも、必要不可欠であります。道路への依存が極めて高い当地域においては、今後も継続した国道、県道整備の促進が必要であり、地域の実情、緊急度合いに応じ高い補助率を設定し集中整備を可能にするなど、効率的な補助基準の見直しが必要と考えます。

以上のような理由から、中期的な計画の作成に当たっては、特に立ち遅れている地方の道路整備の必要性をご理解いただき、道路特定財源の暫定税率分を含め、現行の税率を維持し、必要な道路整備に充当されることを強く要望いたします。

国土交通省
道企第985号
19.5.31

平成１９年４月２４日

岐阜県関市長　後　藤　昭　夫

岐阜県関市長之印